

ASUたちばな会報

第8号 (令和5年11月発行)

会長就任のご挨拶	大濱 慶和	1
退職2年目の日々	伊藤 万知子	2
私にとっての生涯学習	奥村 幸夫	3
「もったいない」と感じること	恒川 光夫	5
車のない生活	原 康二	8
つれづれなるままに	藤井 淳司	9
令和5年度総会次第		12
事務局より	増田 洋平	13

会長就任のご挨拶

大濱慶和

この度 ASU たちばな会の会長を引き受けることになりましたが、この会の実状を把握している者ではありませんので、会員の皆様方からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

私は、平成4年から、東海産業短期大学（現愛知産業大学短期大学）、愛知産業大学経営学部を経て平成28年9月まで勤務させていただきました。この間、愛知産業大学では、学科長、学部長を歴任し多くの先生方、学園関係各位にご支援を賜り無事に定年退職することができたことを嬉しく思っています。

この ASU たちばな会は平成23年創設から初代兼元先生、2代目原先生、3代目本川先生と引継がれ会長を中心に、学園行事への参加、総会・新年会の開催、会報の発行などを行ってきました。

ASU たちばな会の運営については、これまでの方策を引継ぐとともに、コロナが終息し明るい時期になることに望みを抱き、会員の皆様方とのコミュニケーションを深め、より良い ASU たちばな会になるよう努めてまいりますので、何卒、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和5年度 ASU たちばな会

会員数：72名

役員

会長：大濱 慶和

理事：宇野 弘、菰田 一、恒川 光夫、成瀬 正直、本川 暉久

監事：原 康二、横江 嘉明

令和5年度新規入会者

伊藤 俊典、伊藤 幸博、伊藤 万知子、梶浦 輝夫、加藤 吉宏、
近藤 彰、田原 雅史、成田 利正、松本 篤、箭川 哲

※五十音順、敬称略

退職 2 年目の日々

伊藤 万知子

令和 4 年 3 月に定年を待たずに退職しました。コロナ禍での世の中の変化のスピードの速さについていくことが難しく、変化に対応するエネルギーを 95 歳の母との時間に使いたいと思ったからです。また、長年「断捨離」をしなくてはと思いながら放置していた家を片付け、すっきりとした環境で暮らせるようにすることも退職後の目的でした。

退職後 1 年半になろうとしています。現状は家の片付けは進むどころか、全く変化していません。ちょっと手をつけると收拾がつかなくなり、茫然として日が暮れていく始末に自己嫌悪に陥り、つい後回しにしてしまいます。

一方で、母との時間については以前は月に 1 度会うくらいでしたが、現在はかなり増えました。母の買い物や病院への付き添い等のために多いと週 1~2 回実家に行き、私の家に 1 か月おきに 2 泊 3 日に来て、5 人のひ孫たちと楽しく過ごしています。母は足がだいぶ弱ってきていますが、自分の身の回りのことはでき、物忘れはありますがお蔭さまで元気に暮らしております。私が自由になったことで、母も安心して頼ってくれるようになり、穏やかな時間が少しでも長く続くことを願っています。

ところで、退職後は地域の方々との関係を深めたいと地元 JA の女性部に入部し、生け花とストレッチ体操にそれぞれ月 2 回参加、女性部主催の講演会の聴講や絞り体験をして昨年は作品展に出品しました。また、書道教室にも入り、書道以外のお楽しみもあって有意義な時間を過ごしています。多くの方々と交流が始まり、今までとは異なった情報が入手でき、様々な生活の知恵を得られることに感謝する日々です。

今年に入って、10 年前に亡くなった養母の遺品整理を始めました。大正生まれの養母は、壊れた物も処分することなく何でも保管していました。ただ私とは違って整理して保管されていましたが。タオル、ティッシュ、食品ラップ、洗剤等の粗品、古着（着物）はほどいて箱に入れられているものもありました。物が無い時代を過ごしたので何でも大切にとっておいたのでしょうか、こんなものまでと呆れ返ることが多々ありました。

このような日々を過ごしておりますが、一番感じていることは時間の経過が速すぎることです。自分の集中力と処理能力がとても低くなり、何事をするにも2~3倍の時間がかかるようになってしまいました。在職中とは違ってあまり時間に追われる生活ではないので、ゆっくりしたリズムに身体が慣れてしまったのかもしれませんが。今日はこれだけはやると一つ決め、それをやりきるようにしてポチポチ家の片付けをしたいと思います。

そして昨年暮れに白内障の手術をしました。術後の経過が思わしくなく、両目ともクリアになるのに3か月ほど要しましたが、仕事を辞めていて良かったと思いました。

最近「終活講座」の案内を多く目にします。これから健康第一で、適度に断捨離に努め、可愛いおばあちゃんを目指して終活もしていきたいと思います。

私にとっての生涯学習

奥村 幸夫

小生は、おかげをもちまして65歳で定年退職しました。通算39年間学園でお世話になりました。最後の年は愛知産業大学短期大学でした。並行して、短期大学時代からのご縁もあって、名古屋市内の女子大学で引き続き非常勤講師で68歳まで、こちらでは足掛け10年勤務しました。キャリア発達を専門としていましたので、キャリアデザインの講座を持つことができました。

これからセカンドキャリアという、自己に向き合う時間が多くなる生活が始まったわけです。「どうするセカンドキャリア」なのです。そこで考えたのが「学習」をテーマとすることでした。現在、小生は学生をしております。放送大学大学院修士選科生（在学期間1年で、次年度の在籍更新可）として前期1科目、後期1科目のペースで講義を受けております。その講義の中で参考となりそうな事柄がありましたので紹介したいと思います。加齢に伴う変化のうち、身体能力は次第に衰えていくことは事実であります。これはどうしようもありません。身体能力は無理としても健やかに生きるためにはどのように心がければいいでしょうか。

第一に、寿命と健康寿命との差を縮めることです。2022年現在、男性は平均寿命81.4歳、健康寿命72.7歳で女性は平均寿命87.6歳、健康寿命75.4歳（厚生労働省）です。これはあくまで平均であり、個人差があります。モチベーションによって上下かなりの差を生じると言われます。この「モチベーション」とは何でしょうか。モチベーションとは「動機付け」です。「動機付け」をもって生きることとは何でしょうか。小生が心得ていることに一日一つ「わくわく感」を持つようにしています。ささいな日常でも構いません。「わくわく感」の一般的な定義は「期待・喜びなどで心がはずむこと」です。これがモチベーションになります。最近一日の時間が早く感じるのは「わくわく感」がないからであると学習しました。これは科学的に証明されています。そのために必要なものは何か。それが「好奇心」です。好奇心をもって生活することがモチベーションをアップさせるキーワードなのです。第二に、人生で恐れるのは記憶力の低下です。30分前に置いた眼鏡の所在など近過去から小学校のエピソードなどの思い出は加齢に影響があるのででしょうか。記憶の分類は発達心理学で説明されています。一部あげます。

- ① ソースメモリ：どこで得た記憶かを再生できる記憶です。
- ② 展望的記憶：これから何をしようとするかという意図の記憶
- ③ 意味記憶：よく知られている意味・事実の記憶 ex1 年は365日
- ④ フラッシュバルブ記憶：重要な過去の出来事の記憶
- ⑤ 手続き記憶：課題解決のための再生記憶
- ⑥ 潜在記憶：無意識にできる動作、反射的に思い出す記憶

実は③④⑤⑥は、高齢者と若人との差のない記憶といわれています。個人差はあると思いますが、これらの記憶を1年でも長く保つよう努力することです。最後に小生の「わくわく感」について、生涯学習の観点も含めてまとめたいと思います。小生は柄にもなく現在、南こうせつ、THE ALFEE、さだまさしのファン・クラブに入って東海地区で行われるコンサートに通っています。これも生涯学習です。これらのわくわく感は何でしょうか。単なる〇〇押しではないかといわれるかもしれませんが、身近のサクセスフル・エイジング（老いに成功する）とは、こういうことかと一人納得しています。昨年10月6日「NHK SONGS 松任谷由実 with 荒井由実」で特集された事例です。現在69歳の彼女がAR（拡張現実）技術によって40年前の荒井由実と現在の松任谷由実を共演させ「Call me back」を合

唱していました。時代を感じさせないこの曲は 1980 年に自身が作曲したものを 2022 年現在の自身が作詞したものです。アーティストとしての 50 年間、ポジティブに生きるスタイルを見た思いでした。最良業績は最適な年齢があるというレーマンの研究もありますが、松任谷由実は過去から現在まで第一線で活躍してきました。このようにエイジング・スタイルは経験を通して高齢期にさらに開花させます。高齢期は自己を創造する多面性があるといえます。多面性のあるエイジング・スタイル、これが私にとっての生涯学習であります。

「もったいない」と感じること

恒川 光夫

早いもので令和 3 年 3 月末に定年退職して 3 年目を迎えた。これまで恙なく楽しく過ごすことができたのは、何よりも素晴らしい先生方との出会いに恵まれ、また、健康な体に産み育ててくれた両親、そして、生活を支えてくれた妻、家族のお蔭であると深く感謝している。

振り返ってみると、それまで、学区、町内の活動は一切を妻に任せていた。そのような私が現在、地域の方々と諸活動を共にさせていただいているのは何か不思議な気がする。今まで私だけが知らずに過ごしていた地域コミュニティーのつながりはとても新鮮で、いままで見えていなかった方々の存在の有り難さに感謝しつつ、今度は私がお返しをするときではないかと思っている。

現在、ご縁をいただき、愛知産業大学工業高等学校全日制課程、並びに、ELIC ビジネス&公務員専門学校において非常勤講師として勤務している。そして、定年退職を待っていたかのように町内会長さんからお話があり、民生委員・児童委員の委嘱を受け、独居老人の方々や小さい子どもさんとその母親の見守りをしている。また、学童保育指導員にも就任し、小学生と遊びながら、忙しくも楽しく充実した日々を過ごしている。

自宅では家庭菜園を楽しみ、茄子、ミニトマト、オクラ、チェリー、ブルーベリー、マルベリー、アボガド、その他季節の草花や香木等の樹木を育てている。

収穫野菜は食材に利用し、花々は活けて楽しんでいる。そして、おいしい食事と草花を眺めながら思いをめぐらせている。

植物を育てることは自然と人間一体の作業である。春にまき、夏に育て、秋にとりいれるという行為は、自然との協同を率直に示している。四季の運行とともに人間が事をはこんでいる。人間の能力の限界を越えた自然の力にたよりながらも、また、自然の猛威をおそれ、天に祈り地に伏してなげくということのなかで、自然の鼓動、天地万象のいぶきを感じている。

そしてまた、民生委員等の活動から「遊び」や「教師」についても考えさせられた。ホイジンガは、ホモ・ファーベル（作る人）に対して、それに優越したものとしてホモ・ルーデンス（遊びの人）をあげ、「遊び」こそ文化の根源だといっている。

教師とは、いわば教育に遊ぶ人ではないだろうかと思う。誤解を避けるために、ここにいう遊びとは、遊蕩、遊興のそれではなく、遊山、遊学、遊行という場合の遊である。芸に遊び、また閑に遊ぶということもある。

およそ「遊」を最も深いところで理解したのが中国や日本、ことに老荘や禅であったと思う。遊ぶというのは、一定の功利的な目的意識から解放され、無目的、無代償のところ悠然自適している境であり、三昧といってもよいと思う。真の教師のあり方は、教育において遊んでいるとという三昧の境地にあるのではないだろうか。「無為にして化す」ということもそこから出てくると思う。

唐木順三は、百姓と教師が最高の職業であるという。自然天然の働き、水と光と土の恵みに応じて物を生みだしてゆく百姓と、小さい生命に内在する働きをそのままに健全に育ててゆく教師、その二つが最高の生き方であり、私意を去って自然とともにあるという、自然と人間の一体観が、人間の本来のあり方だと述べている。

近代は、生の欲望が無限拡大の方向に進んできたのではないかと考える。しかし、人間という生物には、生物なるが故の必然的な制限がある。肉体においても頭脳の働きにおいても神経においても制限がある。かくして無限に拡大する外界と、制限をまぬかれがたい人間とが不調和におちいり、ときに乖離する。外界の進歩において、精神が萎縮し病むということが起る。そこには、何のための進歩か、向上か、という疑問が普遍化しているのではないだろうか。

そこで、私は心の中でひそかに禁欲を考える。日本の中世の禁欲は禁欲自体に目的があるのではなく、生の欲望を、私意、自己執着、我執、煩悩としてとらえ、それを超えることによって広い世界へ出てゆくことが目的ではなかったのではないかと。

日本の伝統の中には、自然とともにあることの美しさと幸福を示しているものは多い。利休の茶座敷は六畳から四畳半に、さらには二畳にまで縮小されたが、その小さい座敷の中へ天地自然を招き入れた。芭蕉に「山も庭もうごき入るや夏座敷」という句がある。十七字という詩形の中に、四季や人事や人情の移り変わりすべてを入れこんで自在であった。水墨画は、一切の色を否定することにおいて豊富であった。長谷川等伯は、靄に包まれて水蒸気をたっぷり含み、その湿潤な空気までも感じられる見え隠れする松林を、粗速の筆で大胆に描きながら、観る者にとって禅の境地とも、侘びの境地とも受けとれる閑静で奥深い表現をなし得た。能楽は、動よりもむしろ「せぬひま」を見せ所にした。

消費文化の深化する現代、存在するものの命を「もったいない」と感じる情緒、風情は、生の欲望の無限拡大への反定立になりうるのではないだろうか…と思う今日この頃である。

※「民生委員」、「児童委員」、「学童保育」について簡単に紹介したい。

民生委員とは、厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める人である。民生委員は児童委員を兼ねている。

児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談、支援等を行う。

民生委員に選任されると、特別職の地方公務員（無報酬）となる。

学童保育は、放課後に家で子どもたちを見られない場合に預けることができる施設である。「放課後児童クラブ」と呼ばれることもある。学校のように勉強を教えるのではなく、みんなでおやつを食べたり、それぞれが好きなように過ごしたり、宿題をしたりする。学校でも家でもない「第三の場所」であり、放課後に帰宅して自宅で過ごすような「生活の場」である。

車のない生活

原 康二

この3月に車を処分して、車のない生活が4ヶ月になります。もともと車の運転は好きではなく、3月に車検が切れるのを機会に止めました。住まいが岡崎の康生ですので、歩ける範囲にスーパー、コンビニ、銀行、郵便局などがあります。それほど生活に困ることはありません。生協の宅配も取っていますので、ビール、箱ティッシュなど重いもの、かさばるものを注文しています。

ただ、買い物や旅行などは、電車・バスの利用になりある程度制限されるようになりました。守山のコストコ、蒲郡のサンヨネなどは行けなくなりました。

車は自宅から目的地までまっすぐ行けて、とても効率的です。バスの利用では時間に合わせてバス停に行き、バスを待ち、乗って降りて、目的地まで歩かなければなりません。3~4倍時間が掛かる感じです。岡崎は名鉄バスで、65歳以上は一ヶ月6,000円、70歳以上は5,000円のシルバーパスがあります。時期によって岡崎市の補助（一ヶ月1,500円）が利用できます。一ヶ月にどのくらいバスを利用するかによって、パスがお得になります。

車の売却では、車検のギリギリまで使ったほうが良いと思い、業者に相談したのが2月中旬くらいでした。業者の話では、年度が代わる前、昨年12月までに売ったほうが良かったようでした。また、ネットを使ったオークションでは、一週間以内の引き渡しなら高く買うというのがありました。3月に車を使った最後の旅行を計画していたので、すぐ売ることは出来ず、やや低い金額での売却となりました。車検まである程度時間的余裕を持って、早めに業者に相談したほうが良かったようです。

だんだん全体的にバス路線、バス時間を把握できて、行ける所、難しい所がわかってきました。妻は以前よりも歩くようになったと言っています。以下のような感想を持っています。

1. 運転をしなくなり気持ちが楽になりました。車の運転には緊張があります。

大きな事故を起こさず無事に終わってほっとしています。

2. ほぼ、めがねのない生活になりました。矯正視力でしたのでめがねが必需品でしたが、テレビ、映画を見るとき以外は使わなくなりました。
3. 車での移動は個人の延長ですが、公共交通機関の利用では社会との係りを感じます。車とはやや違う風景が見えます。何度も車で通っていた道でも、バスから見ると時に発見があります。視点が高くなり、周囲を見る余裕ができるためでしょう。また、バス停で待つ間、同乗者などこれまであまり会わなかった人（障がい者、外国人など）を見かけることがあります。

猛暑の中、バス停でバスを待つのは辛いものです。目の前を多くの車が通り過ぎます。運転をしている時はあまり意識しませんでした。車を持てる人は恵まれた人です。便利で快適です。ただ一方、車の利用は道路や駐車場の整備など社会の負担となり、環境面にも問題があります。時には悲惨な交通事故を起こしてしまいます。車の待つマイナス面を忘れないことが大切と思います。

岡崎の名鉄バスは、以前より本数が減っています。1時間に2本あったものが1本になったり、利用しにくくなっています。また、路線によっては岡崎市が補助を出して維持しているようです。10年、20年先の社会を考えて、誰もが利用しやすい公共交通機関の整備が望まれます。

つれづれなるままに

藤井 淳司

良いのか悪いのか私にはわかりませんが、とにかく退職後は何のものにも束縛されず自由にのんびりと日々を過ごしたいと考えていました。退職を控えたころ、塾など声を掛けていただいたところもありましたが、これまでとは全く違った人生を楽しみたいということが自身にとって優先しました。

さて、近況をお伝えする前に本学園にお世話になった42年間を振り返っておきます。自己の足跡に関してはどこにも記録はありません。この機会にまとめて

おこうとふと頭に浮かんできました。

スタートは昭和 53 年 4 月です。東海工業高等学校に奉職させていただくことになりました。ここで 6 年間過ごしました。そして昭和 59 年、三河高校へ異動することになりました。創立 2 年目のピカピカの学校です。そこでは 11 年間勤務し。卒業生も 4 回出すことができました。10 年を過ぎた頃でした。戸田先生から「中学校をスタートさせるがそこで頑張ってもらいたい」と言われ、平成 7 年 4 月同じ敷地内でしたが三河中学校に異動しました。ここで 20 年間お世話になりました。その後平成 27 年、再び愛知産業大学三河高等学校に席を移すこととなり、ここで 5 年の歳月が流れ 42 年間の教員生活に終止符を打つことになりました。

こうした中で、すべてが大切な思い出ですが、ことに中学校の 20 年間は強く心に残っています。生徒募集のため塾という塾を回りました。岡崎の地に愛知県私立中学校合同説明会も誘致しました。生徒との関わりでは「いのちの教育」の実践者である東井義雄先生の教えを取り入れさせていただきました。中でも「ほんものはつづく つづけるとほんものになる」という言葉を大切に生徒に接したつもりです。さらに、小さな中学校でしたが小さいからこそ教員のまとまりが大切だと判断し、「ひとりごと」と題して、毎月曜日先生方を対象にプリントを配布しました。中学校の現状を伝え、共に同じ方向を向いて歩いていただこうという考えが根底にありました。振り返って見れば、500 回に及んでいました。週 1 回の発行ですから、夏休みなど長期休暇を挟み 12 年間に及びました。この記録は今でも大切に保存しています。

ずいぶん紙面を使ってしまいました。ここから近況ですが、今のところ元気しております。朝夕は愛犬と散歩です。30 分くらいずつでしょうか。そして毎日の日課としているのは中日春秋の書き写しです。用紙には自由に書くことのできるスペースもありますので、日記としての役目も果たしています。ボケ防止にもつながっていると思っておりますし、このおかげで漢字を忘れるペースは確実に落ちているように感じています。また、机の片隅には硯をおいています。中国の古典の臨書をしたり、気に入った文言を自由に表現したりしています。「つれづれなるままに」といった生活になっているのかわかりませんがこうした中にもいろいろな発見があります。ただ、会話が少なくなっているのも、そこは少し気にし

ています。愛犬と話しているだけではまずいなと思っています。体調管理も自分なり気にしているつもりです。犬の散歩とは別にウォーキングに出かけます。毎日同じ経路ではつまらないので、時には車で公園などに移動しそこで歩くということもしています。また、ゴルフクラブも度々振り回しています。打ち放しが中心で、コースに出ることもめっきり減りました。読書の時間も多くとっています。音楽を聞きながらページをめくっています。クラシックは読書の邪魔にはなりません。さらにありがたいことに卒業生もよく声を掛けてくれます。担任した生徒もいますし、部活動（弓道）の教え子もいます。ランチに行ったり軽く飲みに行ったり目的は様々ですが、楽しい時間を過ごしています。退職記念のパーティーも何組かが開催してくれました。妻も教員をしていますが、どうして生徒との関係がこんなに長く続くのかびっくりしているようです。

これで近況報告になるでしょうか。どんなことでもいいから続けていきたいと考えています。そこにじわじわと心地よくその良さを実感できるような「愉しみ」を見つけることができればいいと思っています。「つれづれなるままに」の中で、最近ほんの少しですがわかってきたような気がします。「生きる」の中に「愉しむ」が増えることを願って筆をおきます。

令和5年度 ASUたちばな会 総会

日 時：令和5年10月28日（土）11時～12時
場 所：愛知産業大学工業高等学校 橘校舎3階会議室
名古屋市中区橘2-6-15 TEL：052-339-2781

総会次第

1. 開会のことば
2. 会長あいさつ
3. 新入会員の紹介及び会員数報告
（令和4年度新入会員数10名、総会員数72名）
4. 令和4年度活動報告
 - (1) 第1回理事会
日時：令和4年6月18日（土）10時～11時
場所：法人事務局 役員会議室
出席者数：7名
 - (2) 総会及び第2回理事会
日時：令和4年10月15日（土） 理事会 10時～
総 会 11時～
場所：愛知産業大学工業高等学校 橘校舎3階会議室
出席者数：理事会8名
総 会 16名
 - (3) ASUたちばな会報第7号 発行
5. 令和4年度会計報告
6. 令和5年度活動計画
 - (1) 第1回理事会
日時：令和5年6月17日（土）10時～
場所：法人事務局 役員会議室
 - (2) 総会及び第2回理事会
日時：令和5年10月28日（土）
場所：愛知産業大学工業高等学校 橘校舎3階会議室
 - (3) ASUたちばな会報第8号 発行
 - (4) 新年会 令和6年1月開催予定
7. 閉会のことば

事務局より

この度、会報第8号を発刊させていただくことになりました。これは皆様のご協力の賜物だと思っております。誠にありがとうございます。

さて、今年5月より新型コロナウイルスが感染症法上の5類に分類され、令和元年度から講じられてきた感染症対策も大きく緩和されることとなりました。コロナ禍前と全く同じ生活とは行きませんが、マスクなしで人の顔が見られるようになったことが何よりも嬉しく感じております。本会もコロナ禍により総会以外の行事を暫く自粛してまいりましたが、上述のとおり感染症対策が緩和されたので、会員同士の懇親を深めることを目的とした新たな行事を企画したいと考えております。なるべく多くの会員にご参加いただけるような行事にしたいと思っておりますので、ご意見ご要望等ございましたらお聞かせいただければ幸いです。

さて、本学園の各設置校についてですが、愛知産業大学工業高等学校は令和6年度より「名古屋たちばな高等学校」へ校名変更することとなりました。併せて、男女共学化し、新たに普通科を設置いたします。昭和36年4月創立以来、工業高校として男子教育に邁進してまいりましたが、VUCA時代(将来予測の困難な時代)により柔軟に適応できるよう進化いたします。また、愛知産業大学の強化指定部活動の男子ハンドボール部が令和5年度東海学生ハンドボール連盟春季2部リーグで優勝し、今年度秋季リーグより1部に昇格いたしました。本学園各校学生・生徒の活躍は、学園広報誌コミュに掲載しておりますので、是非ご一読いただきたく思います。

連絡先：法人事務局 業務課 増田 洋平

〒460-0016 名古屋市中区橘 2-6-15

TEL：052-339-2781 FAX：052-339-2782

E-mail：ymasuda@asu.ac.jp